



# 総合型地域スポーツクラブを対象としたソーシャル・キャピタル論の文献的検討

稲葉, 慎太郎  
山口, 泰雄

---

(Citation)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 10(2):151-164

(Issue Date)

2017-03-30

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/E0041235>



# 総合型地域スポーツクラブを対象としたソーシャル・キャピタル論の文献的検討

## A review on the studies of social capital for community sport clubs

稲葉 慎太郎\*      山口 泰雄\*\*

Shintaro INABA\*      Yasuo YAMAGUCHI\*\*

**要約：**本研究の目的は、総合型地域スポーツクラブに関する研究においてソーシャル・キャピタル論を援用する際の研究課題を、文献レビューを通じて明らかにすることである。具体的には、まず、ソーシャル・キャピタルに関する研究を概観し、それらの定義からソーシャル・キャピタルという概念の捉え方を整理した。次に、スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタルに関する研究を質的研究と量的研究に分け、それぞれで研究トピックごとに分類して研究の傾向を整理した。さらに、総合型地域スポーツクラブに関する研究においても、研究トピックの分類から研究の傾向を整理した。以上の結果から、ソーシャル・キャピタルとの関係性が見込まれる総合型地域スポーツクラブの事象に関して、実証的研究を進める際の研究課題を検証した。第一に、クラブの運営スタッフがどのような過程を経てソーシャル・キャピタルを形成するに至るのか、第二に、クラブの運営スタッフが形成したソーシャル・キャピタルは、具体的にどのようなクラブの活動内容に寄与するのか、第三に、ソーシャル・キャピタルを独立変数として捉え、クラブ運営評価へ影響を及ぼすのかを実証的に明らかにするという研究課題が明らかになった。

### 1. はじめに

1990年代以降、Putnam (1993) の研究に端を発してソーシャル・キャピタルという概念に注目が集まっている。鹿毛 (2002) は、目的達成のために社会的ネットワークを資本として活用し、一見、非合理に見える協調的行動の合理的説明を目的とするのがソーシャル・キャピタルの理論的枠組みであると述べている。そして、社会学においてColeman (1988) が扱っていたソーシャル・キャピタルの理論的枠組みをPutnam (1993) が政治学に援用したことで、政治学・社会学を中心に、また経済学、歴史学、心理学などの隣接領域も巻き込みながら、幅広い論争が繰り広げられてきた(鹿毛, 2002)。実践的には、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、そして日本において政府レベルで調査が行われている。さらに、国際協力事業団 (2002)、OECD (2001)、The World Bank (Grootaert and Basteler, 2001; Grootaert et al., 2004; Woolcock and Narayan, 2000) といった国際組織が、主に開発援助活動における協調行動においてソーシャル・キャピタルの重要性を報告している。これらの報告書の中で、スポーツが私的財としてだけではなく、むしろ非排他性や非競争性に特徴づけられる公共財としての性質を有している(長積ら, 2006) ことが注目され、運動・スポーツとソーシャル・キャピタルに重要な関連性があると述べられている。

わが国で運動・スポーツが公共的な側面から注目されるようになったのは、「社会体育—考え方・進め方—」(文部省, 1960) と「経済社会基本計画」(経済企画庁, 1973) であろう。当時の高度経済成長を背景としながら、社会の流動化・都市問題によって従来の町内会等の既成組織が弛緩し、地域スポーツ団体をはじめとした自主的な市民活動団体が行政のパートナーとして位置付けられるようになった(鯨坂, 2006)。その後、各自治体にて地域スポーツ振興事業が展開され、1995年には文部省(当時)によって「総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」と略す)育成モデル事業」が開始された。そして、スポーツ振興基本計画(文部省, 2000)とスポーツ基本計画(文部科学省, 2012)の基本方針において、コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進が掲げられている。すなわち、地域スポーツ振興という公共性の高い取り組みの中心的な役割を地域スポーツクラブに位置づけ、地域住民の主体性によるクラブ運営がコミュニティ形成に寄与することを期待している。しかし、文部科学省(2015)が報告するように、60%以上のクラブが「会員の確保(増大)」、「財源の確保」、「指導者の確保(養成)」という課題を抱えている。また総合型クラブは、行政主導と住民の依存体質を脱し、住民主導型の地域スポーツ振興組織(八代, 1996)を目指したものであるが、嘉門(2016)が指摘するように、現状は行政主導による量的

\* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程後期課程

\*\* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授

(2016年9月30日 受付)  
(2016年10月31日 受理)

拡大が先行し、クラブの設立意義である生活課題に沿って地域住民が主導してクラブを運営していくという観点からは不十分な育成状況であるといえる。「新しい公共」(内閣府, 2010)という言葉に表されるように、行政と地域住民が協働しながら公共性の高い事業に取り組むうえでは、協調行動を促進するとされるソーシャル・キャピタルの概念を活用し、地域スポーツ振興を担う総合型クラブの運営や育成支援のあり方を検討することは意義あることと考えた。したがって本研究の目的は、文献レビューを通し、総合型クラブを対象としてソーシャル・キャピタル論を援用する際の研究課題を検証することである。

## 2. 研究方法

本研究は、以下「ソーシャル・キャピタルをめぐる議論の概観」、「スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向」、「総合型クラブに関する研究の動向」、「総合型クラブを対象とした研究におけるソーシャル・キャピタル論の有効性と課題」によって構成し、研究目的を達成することを試みた。これらの構成を設定した事由を順にあげていく。まず、「ソーシャル・キャピタルをめぐる議論の概観」を設定したのは、理論面・実践面で「ソーシャル・キャピタル」概念の使用が拡大する一方で、その具体的な内容について統一的な理解があるわけでは決していない(鹿毛, 2002)ためである。したがって、ソーシャル・キャピタルに関する研究の系譜を概観し、それらの研究におけるソーシャル・キャピタルの定義を整理する必要がある。次に、「スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向」を設定したのは、ソーシャル・キャピタルとスポーツに関するどのような事象との間で関連性を検証しているのかを、研究トピックの傾向から探るためである。そして、「総合型クラブに関する研究の動向」を設定したのは、現在までに行われている研究トピックの傾向から、ソーシャル・キャピタルとの関連性がうかがえる要因を検討するためである。さらに、「総合型クラブを対象とした研究におけるソーシャル・キャピタル論の有効性と課題」において、前述の3つの構成において示された研究トピックなどを通じて、総合型クラブを対象とした研究におけるソーシャル・キャピタル論の援用において、有効性と研究課題を示すためである。「スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向」と「総合型地域スポーツクラブに関する研究の動向」ではインターネット上で公開されている文献検索データベース、具体的には、「CiNii(国立情報学研究所論文情報ナビゲータ)」、「J-STAGE(総合電子ジャーナルプラットフォーム)」、「Science Direct(エルゼビア・ジャパン社)」及び「Web of Science Core(トムソン・ロイター・プロフェッショナル社)」を活用した。質的研究と量的研究に分類したうえで、それぞれの研究トピックをもとに研究の動向を整理していく。

## 3. ソーシャル・キャピタルをめぐる概観

表1は、ソーシャル・キャピタルに関する過去の研究と、それぞれの研究においてソーシャル・キャピタルがどのように定義されてきたかを示している。Putnam(2000)によると、ソーシャル・キャピタルという用語を最初に用いたのはHanifan(1916)とされている。この知見において、ソーシャル・キャピタルを「善

意、友情、共感、そして社会単位を構成する人間間、家族間の社会的交流」と定義し、コミュニティ形成において地域と学校との相互関係の重要性を主張する際に用いている。Putnam(2000)は、この定義を受けて、後世のソーシャル・キャピタルの解釈における重要な要素を既にほとんど含んでいると指摘している。しかしながら、当時はソーシャル・キャピタルという概念に対して注目が集まることはなく、研究の潮流が一時的に途絶えてしまう。次にソーシャル・キャピタルを用いて議論を行なったのはJacobs(1961)とされる。当時、再開発が進むアメリカ都市部において、多様な住民が混在していた旧来の都市構造にこそ隣人同士のネットワークとしてのソーシャル・キャピタルが形成されており、都市発展の持続可能性において重要な要因であることを主張している。

この後、ソーシャル・キャピタルに関する研究は、個人レベルに焦点を当て資本としての性格を明確に捉えながら議論される。Loury(1977)は、「人的資本の獲得を助ける社会的装置で、長期的な社会関係性の結果もたらされるもの」としてソーシャル・キャピタルを定義し、人的資本の獲得をするうえでの社会関係性を資本として議論している。またBourdieu(1986)は、階層分化の要因として経済的資本・文化的資本と並ぶ資本としてソーシャル・キャピタルをあげ、「制度化された相互の知己、認知関係の持続的なネットワークの所有と関連した、現実のあるいは、潜在的な資源の総体」と定義し、様々な資本へのアクセスに欠かせない要因としている。Bourdieu(1986)とLoury(1977)におけるソーシャル・キャピタルの定義は、個人がより有効な人的資本を獲得・活用するための社会ネットワークの機能を資本として捉え、社会的・経済的便益を得ることが念頭に置かれている。そしてColeman(1988)は、ソーシャル・キャピタルを「個人に協調行動を起こさせる社会の構造や制度で、信頼・互酬性の規範・社会的ネットワーク、または、人々との関係に構造的に内在するもの」と定義し、個人間に形成される形態でありながら、公共性に寄与する側面をより強調している。また、「他の資本と同様に生産的であり、それなしでは獲得することのできない特定の目的を実現することを可能にする」という特性を述べており、意図的に投資できるものと主張している。Bourdieu(1986)やColeman(1988)、Loury(1977)によるソーシャル・キャピタルの定義が個人間に属する形態の資本であることを示したことから、Baker(1990)、Burt(1992)の定義では個人が自己の利益を得るための私的財としての資本の性格が強調される。Baker(1990)はソーシャル・キャピタルを「個人がもつ経済的、人的資本を使う機会を与えるネットワーク」と定義し、ソーシャル・キャピタルが明確に個人レベルに形成されることを述べ、経済学的視点での資本の活用機会を生み出すものとして捉えている。さらに、Granovetter(1973)による弱い紐帯のネットワーク論への批判として、Burt(1992)はネットワークの構造的な隙間をつなぐことこそ個人の経済的な競争力を高めるとし、ソーシャル・キャピタルを「関係構造における個人的位置づけによって創造される利点」と定義した。これを実証する形で、Gabbay(1997)は私的財としてのソーシャル・キャピタルが経営者同士という個人間において形成されることで、IT関連企業の隆盛に結びついたことを主張している。したがって

鹿毛（2002）が述べるように、社会学においてはソーシャル・キャピタルを個人レベル、言い換えればマイクロで捉える概念として議論が進められるようになったといえる。

Putnam（1993）がColeman（1988）の知見を援用し、ソーシャル・キャピタルの概念を用いてイタリアの州ごとの統治パフォーマンスの差を検証したことを契機に、ソーシャル・キャピタルの概念が政治学でも重要な概念として認識されるようになった。Halpern（2005）は、Putnam（1993）の発表以降でソーシャル・キャピタルに関する学術論文数が右肩上がりとなっており、2003年当時で300本近い学術論文が発表されていることを報告している。Fukuyama（1995）は、Putnam（1993）の知見を受けて、「信頼が社会に広くいきわたっていることから生じる能力、あるいは集団を構成するメンバー間で共有されるインフォーマルな価値、あるいは規範全体」とソーシャル・キャピタルを定義している。Putnam（1993）やFukuyama（1995）は、社会的な協調行動を促す社会的信頼を強調しており、実践的な公共政策に関わる事象との関係性を論じられるようになる。Evans（1996）やCollier（1998）においては、ソーシャル・キャピタルを政府と市民という二群間の関係性において限定的に捉えている。Evans（1996）は、公的なソーシャル・キャピタルと私的なソーシャル・キャピタルが存在し、両者が機能することによって政府と市民との社会的連結を助けると主張している。またCollier（1998）は、政府と市民との相互作用においてソーシャル・キャピタルが持続的に作用することを述べている。そして、政治学におけるソーシャル・キャピタルの知見が、各国政府のソーシャル・キャピタルに関する調査・研究（Australian Bureau of Statistics, 2006；Canada Statistics, 2000；Office for National Statistics, 2003；Statistics New Zealand, 2001）を促すことになったといえる。

2000年前後になると、ソーシャル・キャピタルがもたらす公益性を国や州などの行政レベルではなく、国際的な開発援助に焦点を当てて論じられることが増えてくる。具体的には、The World Bank, OECD, 国際協力事業団（現、国際協力機構）といった国際組織が、開発援助や経済協力に対する効率を検証するうえで、対象となる地域の集団行動とソーシャル・キャピタルとの関係性を検証している。すなわち、発展途上国や災害復興地域において経済的な資本を投入するうえで、これらの資本がより効率的に活用されるソーシャル・キャピタルが蓄積されているか、ソーシャル・キャピタルを形成するように介入を行う必要があるのかを判断するうえで、ソーシャル・キャピタルの計測手法を開発するに至っている。したがって、ソーシャル・キャピタルを実践的にかつ量的に把握する指標を検討する際に、開発援助の文脈に沿ってソーシャル・キャピタルの定義がなされている。The World Bank（Krishna and Uphoff, 1999；Woolcock, 1998；Woolcock and Narayan, 2000）においては、ソーシャル・キャピタルを規範とネットワークを有する概念として定義し、その性格は相互利益、互恵的、共同的といった集団行動を促すものであるとしている。OECD（2001）においては規範・ネットワークを有し、協力行動を促す要因として捉えており、国際協力事業団では、開発目標という限定的な対象に対して、協調行動を促す要因として定義している。国際援助機関によるソーシャル・キャピタルの認識は、

Putnam（1993）が定義する協調行動を効率化する規範・ネットワークという側面、Coleman（1988）が定義する個人間において構造的に内在するという側面を兼ね備えているといえる。

ソーシャル・キャピタルをめぐる研究の系譜をまとめると、まず1960年代に、社会学における都市やコミュニティにおける公共性や社会的包摂の性格を表す概念として論じられた。その後、人種や階層と並んで社会的格差を生み出す要因の一つとして、あるいは公共的な活動を促進する要因として、経済的・人的資本を獲得するうえでの重要な資本の一種として捉えられた。1990年代に入ると、政治学的に行政パフォーマンス等のマクロ・レベルでの現象との関連性の検証が進み、一方で、経済学・経営学の視点から、個人が成果を生み出すマイクロ・レベルでの現象を促進する要因としての議論が進んだ。近年では、国際的な事業である開発援助や経済協力を効率化する、または促進する要因として、実践的な研究や報告が寄せられている。以上、ソーシャル・キャピタルとの関連性を検証している対象の違いにより、ソーシャル・キャピタルがもたらす成果の違いが定義に反映されていた。Ostorn and Ahn（2003）は、ソーシャル・キャピタルを国や行政区分等の集団レベルで捉える場合と、個人・組織等の個人レベルで捉える場合が存在することが、ソーシャル・キャピタルの定義コンセンサスが取れていないことの要因としてあげている。したがって、ソーシャル・キャピタルとの関係性を検証する事象に沿った定義に基づいて議論を展開していくことが重要であると考えられる。

#### 4. スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向

先行研究の収集にあたっては、インターネット上に公開されている文献検索のデータベースのうち、和文に関しては「CiNii」と「J-STAGE」、英文に関しては「Science Direct」と「Web of Science Core」の文献検索データベースを用いた。文献を検索する際には、CiNiiでは詳細検索の「タイトル」、J-STAGEでは詳細検索の「標題」、Science Directではadvanced searchの“journal or book title”、Web of Science Coreでは検索条件で「タイトル」というように、検索範囲を制限し、和文では、「スポーツ」と「ソーシャル・キャピタル」、英文では“sport”と“social capital”をキーワードとした。検索の結果、CiNiiでは27件、J-STAGEでは0件、Science Directでは24件、Web of Science Coreでは32件が該当した。これらの文献のうち、CiNiiについては学会発表抄録集・予稿集の10件を除いた17件、Science Directについてはbook titleの14件を除いた10件を分析対象とした。また、Science Directの検索結果とWeb of Science Coreの検索結果の間に4件の重複がみられた。これらから、スポーツとソーシャル・キャピタルの関係性を実証的に明らかにする研究目的を設定しているものを選別し、ソーシャル・キャピタルの質的研究と量的研究を分類した。いずれの研究区分においても、研究目的、調査対象、調査方法、ソーシャル・キャピタルとの関連・影響要因、結果を整理した。これらに加えて量的研究においては、ソーシャル・キャピタルの指標、分析方法について整理した。

表2は、スポーツとソーシャル・キャピタルの関係性について、質的に検証した研究を示している。それぞれの研究トピックについて、研究目的、ソーシャル・キャピタルとの関連・影響要因、

表 1. ソーシャル・キャピタルに関する研究と定義

| 著者名                                      | 年    | ソーシャル・キャピタルの定義                                                                | 含まれる主な概念                                       |
|------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| Hanifan                                  | 1916 | 善意、友情、共感、社会的単位を構成する人間間、家族間の社会的交流                                              | 善意、友情、共感、社会的交流                                 |
| Jacobs                                   | 1961 | 近代都市における、相互監視や助け合いを生む隣人同士のネットワーク                                              | ネットワーク                                         |
| Loury                                    | 1977 | 人的資本の獲得を助ける社会的装置で、長期的な社会関係性の結果をもたせられるもの                                       | 社会的装置、社会的関係性                                   |
| Bourdieu                                 | 1986 | 制度化された相互の知己、認知関係の持続的なネットワークの所有と関連した、現実のあるいは、潜在的な資源の総体                         | 認知関係、ネットワーク                                    |
| Coleman                                  | 1988 | 個人に協調行動を起こさせる社会の構造や制度で、信頼・互酬性の規範・社会的ネットワーク、または、人々の間の関係に構造的に内在するもの             | 信頼、規範、ネットワーク                                   |
| Baker                                    | 1990 | 個人がもつ経済的、人的資源を使う機会を与えるネットワーク                                                  | ネットワーク                                         |
| Burt                                     | 1992 | 関係構造における個人の位置づけによって創造される利点                                                    | 関係構造                                           |
| Putnam                                   | 1993 | 人々の協調行動を活発にさせることによって社会の効率性を高めることのできる、信頼・規範・ネットワークといった社会構造の特徴                  | 信頼、規範、ネットワーク                                   |
| Fukuyama                                 | 1995 | 信頼が社会に広くいきわたっていることから生じる能力、あるいは集団を構成するメンバー間で共有されるインフォーマルな価値、あるいは規範全体           | 信頼、インフォーマルな価値、規範                               |
| Evans                                    | 1996 | 公的なものと私的なもの、政府と市民の連結を助けるもの                                                    | 連結                                             |
| Collier                                  | 1998 | 持続的な社会的相互作用とその作用による持続的な効果で、政府のものと市民的なもの                                       | 社会的相互作用                                        |
| Woolcock                                 | 1998 | 相互利益のための集団行動を促進する規範とネットワーク                                                    | 規範、ネットワーク                                      |
| Krishna and Uphoff<br>(The World Bank)   | 1999 | 互恵的集団行動をうながす社会的ネットワークや役割、機構、規則などと、そうした行動に人々を向かわせる信頼、互恵、団結、参加、規範、情報、情報、価値、信条など | 互恵的、ネットワーク、役割、機構、規則、信頼、互恵、団結、参加、規範、協調、情報、価値、信条 |
| Woolcock and Narayan<br>(The World Bank) | 2000 | 人々が共同的に行動することを促進するネットワークや規範で、結合型、橋渡し型、連結型がある                                  | ネットワーク、規範                                      |
| OECD                                     | 2001 | グループ内ないしはグループ間の協力を容易にさせる規範・価値観・理解の共有を伴ったネットワーク                                | 規範、価値観、共有、ネットワーク                               |
| 国際協力事業団<br>(現、国際協力機構)                    | 2002 | 当該社会・集団内もしくは社会・集団間において、開発目標に向けて必要な何らかの協調行動を起こすことに影響を与える社会的な諸要因                | 社会・集団、協調行動                                     |
| 内閣府                                      | 2003 | 信頼のもと築かれた社会的なつながり、人間関係のこと                                                     | 信頼、社会的なつながり、人間関係                               |

結果を概観して、「社会的包摂」、「コミュニティ形成への寄与」、「スポーツ組織の体質」、「地域スポーツへの貢献」に分類した。そのうち「社会的包摂」に着目している研究 (Bruening et al., 2015; Hayton, 2016; Hoyer and Nicholson, 2009; Peachey et al., 2011, 2015a, 2015b; Spaaij, 2012; Walseth, 2008) が最も多く、特に、ボランティア関係者を対象としている研究が中心となっていた。Bruening et al. (2015) や Hayton (2016), Peachey et al. (2011, 2015a, 2015b) は、開発のためのスポーツ (Sport for Development) を主題としたイベントのボランティア関係者が対象となっており、活動の対象者や活動者間での人間関係の構築の中で、信頼関係や社会的課題に対しての規範意識を共有していくというソーシャル・キャピタルの形成が進むことを示している。また、Spaaij (2012) や Walseth (2008) は、移民を対象に地域スポーツへの参加を通してソーシャル・キャピタルが形成され、社会的包摂が進むのかを検証している。いずれの研究においてもソーシャル・キャピタルの形成を認め、一定の社会的包摂が進むことを示しているが、地域スポーツクラブ等の活動環境によって限界があることを主張している。

次いで、「コミュニティ形成への寄与」に着目した研究 (Adams, 2014; Atherley, 2006; Jarvie, 2003; Kay and Bradbury, 2009; Skinner et al., 2008; Tonts, 2005) も多くみられた。いずれの研究においても、地域スポーツへの参加がソーシャル・キャピタル形成につながり、共同体意識の促進 (Jarvie, 2003) やコミュニティ間の橋渡し型ソーシャル・キャピタルの形成 (Atherley, 2006)、地域コミットメント (Kay and Bradbury, 2009)、地域活動の促進 (Skinner et al., 2008) に寄与することを示している。一方で Tonts (2005) は、スポーツによって形成されたソーシャル・キャピタルは、社会的要因や経済的要因によって阻害されることもあり、一部住民にとっては排他性をもたらす可能性を指摘している。

「スポーツ組織の体質」に着目した研究 (Darcy et al., 2014; Numerato, 2008; Numerato and Baglioni, 2011; Whittaker and Holland-Smith, 2016) においては、スポーツの競技団体・普及団体・ボランティア団体における組織内における体質をソーシャル・キャピタルの概念を用いて検証している。Numerato (2008) や Numerato and Baglioni (2011) においては、競技団体役員間において形成されるソーシャル・キャピタルに着目し、過度な信頼関係を団体のガバナンスに濫用する可能性があり、限られた関係者間のソーシャル・キャピタルの形成が排他性をもたらすことを指摘している。Whittaker and Holland-Smith (2016) はスポーツ・ボランティア団体を対象とし、団体のメンバー勧誘の際にソーシャル・キャピタルの排他的な側面が形成され、階層的な人間関係が構築されることを指摘している。Darcy et al. (2014) は、マリンスポーツの普及団体を対象に、普及活動を進めていく中で、活動に関わるボランティア関係者間のソーシャル・キャピタルが形成され、新たな人的資本を獲得していることを示している。組織の構成員間のソーシャル・キャピタル形成については、新たなネットワークを構築できる可能性と、既存構成員による閉鎖的な人間関係の構築の可能性という両側面を孕んでいることがうかがえる。

「地域スポーツへの貢献」に着目した研究 (Burnett, 2006; 飯田, 2010; 長積ら, 2009b) は、いずれも地域スポーツクラブ関係者を対象としている。Burnett (2006) は、地域スポーツクラブでの活動を通じて、クラブ代表者や指導者、会員において形成されたソーシャル・キャピタルが、クラブ内外でのネットワーク構築に投資され、結果としてクラブの運営・活動に貢献するものであると主張している。同様に、長積ら (2009b) や飯田 (2014) においても地域スポーツ振興の実践において関係者にソーシャル・キャピタルの形成が見込まれ、行政担当者においてはスポーツ以外の分野への幅広いネットワークの構築、クラブ関係者間においては水平的なネットワークの構築が望ましいと指摘している。

上記のいずれの研究トピックにも分類されなかったが、Kobayashi et al., (2011) は、ソーシャル・キャピタルにおける社会的ネットワークの側面に注目し、雇用機会の確保等の経済的便益を得ることに繋がることを実証している。研究対象はバスマツのアマチュア・サッカークラブであり、クラブ内外の人間関係に形成されるソーシャル・キャピタルが、個人を対象として経済的に資するという点は、Baker (1990) や Burt (1992) の知見をスポーツによって形成されたソーシャル・キャピタルに着目したものであり、今後検証が進められるべき分野といえる。

表3は、スポーツとソーシャル・キャピタルの関係性について、量的に検証した研究を示している。それぞれの研究トピックについて、研究目的、ソーシャル・キャピタルの指標、ソーシャル・キャピタルとの関連・影響要因、結果を概観し、「ソーシャル・キャピタル形成の比較」、「コミュニティ形成への寄与」、「資本としてのソーシャル・キャピタル」に分類を試みた。「ソーシャル・キャピタル形成の比較」を焦点に置いた研究 (Gibson et al., 2014; Harvey et al., 2007; 仲谷, 2012; Nicholson et al., 2013; Okayasu et al., 2010; Seippel, 2008; 行實・中西, 2009) が多くみられ、スポーツに関わる事象において形成されたであろうソーシャル・キャピタルを、様々な変数をもとに比較している。仲谷 (2012) や Nicholson et al. (2013), Okayasu et al. (2010), 行實・中西 (2009) は、地域スポーツクラブに焦点をあてており、これらの知見を合わせると、地域団体より地域スポーツクラブの方が、クラブ設立前より設立後の方が、単一型よりも総合型の方が、活動のみの会員よりも幅広い運営に参加する会員の方がソーシャル・キャピタルの形成が進んでいることを示している。また Harvey et al. (2007) は、スポーツ・ボランティア経験者の方がソーシャル・キャピタルの形成が進むことを示しており、Gibson et al. (2014) もイベントのボランティアに積極的に参加した層においてソーシャル・キャピタルの形成が進んでいたことを述べている。

「コミュニティ形成への寄与」を焦点に置いた研究は、質的研究と同様に研究トピックとしてみられた。Lee et al. (2012) や Seippel (2006), Perks (2007) は、地域スポーツクラブに所属しての活動、もしくは活動経験がソーシャル・キャピタル形成において有益であることを主張している。長積ら (2009a) はコミュニティの帰属意識に対して、Prins et al. (2014) は規範意識に対してソーシャル・キャピタルが正の影響を及ぼすことを指摘している。

表 2. スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向 (質的研究)

| 著者                          | 年     | 研究目的                                                                          | 調査対象                                               | 調査方法                      | ソーシャルキャピタルとの関連・影響要因              | 結果                                                                                                                                          | カテゴリ         |
|-----------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| Jarvie                      | 2003  | スコットランドの地域スポーツクラブを対象とし、クラブの活動によって形成されるソーシャル・キャピタルの共同体意識に対する影響を検証する。           | 地域スポーツクラブの会員                                       | 半構造化インタビュー                | 地域スポーツクラブ、共同体意識                  | スポーツ・ファン・オーガニズムにもとづいた地域スポーツ活動がソーシャル・キャピタル形成に寄与し、共同体意識を促進している。                                                                               | コミュニティ形成への寄与 |
| Tonts                       | 2005  | 農村地域において、地域スポーツ活動への参加がソーシャル・キャピタルの形成に寄与することを検証する。                             | 西オーストラリア州の6地域の住民                                   | 半構造化インタビュー、質問紙調査          | 地域スポーツ、排他性                       | 多くの住民にとって、地域スポーツへの参加がソーシャル・キャピタルを形成するうえでの有効な手段となることが示された。しかし、スポーツによって形成されたソーシャル・キャピタルは社会的要因や経済的要因によって阻害されることも多く、一部住民においては排他性をもたらす可能性も示唆された。 | コミュニティ形成への寄与 |
| Atherley                    | 2006  | 地域スポーツクラブの活動を通して形成される、コミュニティ・レベルと地域・レベルでのソーシャル・キャピタルの要因を検証する。                 | 西オーストラリア州北西2都市における25の地域スポーツクラブ                     | 半構造化インタビュー、質問紙調査          | 地域スポーツクラブ、交流                     | コミュニティ・レベルでは信頼や協働といった結束型のソーシャル・キャピタルの形成が進んでいる。地域・レベルでは、特化型・ポータルチームのクラブ間交流を通じて、コミュニティ同士をつなぐ合わせる標準化型のソーシャル・キャピタルの形成がみられた。                     | コミュニティ形成への寄与 |
| Burnett                     | 2006  | 地域スポーツクラブでのソーシャル・キャピタルの形成を、ネットワークと市民性の醸成とについて検証する。                            | クラブ代表者、指導者、スタッフ、会員                                 | 半構造化インタビュー                | 地域スポーツクラブ、ネットワーク                 | 地域スポーツクラブで形成されたソーシャル・キャピタルは、クラブ内外のネットワーク・関係性の構築に役立ち、クラブやクラブに属する個人の集約性に寄与する。                                                                 | 地域スポーツへの貢献   |
| Numerato                    | 2008  | スポーツ団体において、ソーシャル・キャピタルに着目して市民参加の特性を阻害する機能について検証する。                            | チエコ国内の国・レベルと地域・レベルのスポーツ団体の役員                       | 内容分析、半構造化インタビュー           | スポーツ団体、排他性                       | ソーシャル・キャピタルの真の側面である排他性が、国・レベル・地域・レベルの組織の相互関係において形成されており、スポーツ団体の効果的な取り組みを阻害する可能性がある。                                                         | スポーツ組織の体質    |
| Skinner et al.              | 2008  | 貧困地域において、スポーツ参加がソーシャル・キャピタルの形成を通じて、地域団体の組織の活動に及ぼす影響を検証する。                     | オーストラリアの低所得地域                                      | 半構造化インタビュー                | スポーツ参加、地域活性化、持続可能性               | スポーツ参加は、ソーシャル・キャピタルを形成するうえで有効な手段である。若年・ソーシャル・キャピタルの形成によって、地域の活性化や持続可能性をむとらさず、地域団体の活動を促進する可能性がある。                                            | コミュニティ形成への寄与 |
| Wakeeth                     | 2008  | ソーシャル・キャピタルのうちの社会的ネットワークに焦点を当て、移民の若い女性において、スポーツ参加がソーシャル・キャピタルの形成に寄与することを検証する。 | オーストラリア国内に在住の移民2世代である16〜25歳の女性                     | 半構造化インタビュー                | スポーツ参加、スポーツクラブ、ネットワーク            | 対象の女性たちは、スポーツクラブでの活動を通じて多様な機会を持つ移民間のネットワークを形成していたが、クラブという限られた社会空間においてのみソーシャル・キャピタルの形成が進む傾向がみられた。                                            | 社会的包摂        |
| Hoye and Nicholson          | 2009  | スポーツ行政による施策が、ソーシャル・キャピタルに関連する概念、アイディア、専門用語に基づいているかを検証する。                      | オーストラリアの主要5州におけるスポーツ行政に関する年次事業報告書                  | 内容分析                      | エリートスポーツ、地域スポーツ、社会的包摂、社会的結合、福利   | エリートスポーツの強化、地域スポーツの活性化、スポーツを通じた開発といったコンセプトにおいて、社会的包摂、地域の福利といったソーシャル・キャピタルとの関係性が強い概念を強調に置いた施策がみられた。                                          | 社会的包摂        |
| Kay and Bradbury            | 2009  | 青少年のスポーツ・ボランティアへの参加が、ソーシャル・キャピタルの形成に寄与することを検証する。                              | イギリスにおける青少年向けスポーツ・ボランティア・プログラム参加者                  | 半構造化インタビュー                | スポーツ・ボランティア、地域コミットメント            | 地域スポーツ振興の事業化とソーシャル・キャピタルの創制には、地域内の資源の有効活用、既存の内向きのネットワークにとまらず、新しい相手の関係構築することが重要である。                                                          | コミュニティ形成への寄与 |
| 長橋ら                         | 2009b | 地域スポーツ振興事業にかかわる行為者間の人的相互作用に着目し、地域性や誇りを踏まえ、スポーツ振興事業の組織化と創発の促進要因を検証する。          | 地域スポーツ振興事業関係者(行政担当者、地域リーダー(ノ))                     | 半構造化インタビュー                | 地域スポーツ振興、地域資源、ネットワーク             | 参加者は多様な社会的資源との接触を通じて、人格形成や社会的スキルの向上を認識し、地域参加への関心が高まった。地域コミットメントに寄与するソーシャル・キャピタル形成の議論において有益な結果といえる。                                          | コミュニティ形成への寄与 |
| 鯉田                          | 2010  | 地域においてスポーツを促進している人々のつながりを、ソーシャル・キャピタルを利用して包括的に把握する。                           | クラブ関係者(正・上上げ者、会員等)                                 | 半構造化インタビュー                | 地域スポーツクラブ                        | 地域スポーツクラブの組織発展により、垂直型に加えて水平型・ソーシャル・キャピタルが築かれ、クラブ内での指導者育成が自然ななど、今後の安定的な発展につながるという。                                                           | 地域スポーツへの貢献   |
| Kobayashi et al.            | 2011  | スポーツ選手が形成したソーシャル・キャピタル、特に社会的ネットワークに焦点を当て、ネットワークを介して得た具体的な資源を明らかにする。           | バスケットボールサッカークラブの選手                                 | インタビュー・インタビュー             | サッカークラブ、ネットワーク、社会的経験             | サッカークラブ自体が選手個人のソーシャル・キャピタルを形成する場となっていた。具体的には、クラブにおいて選手・関係者間の社会的ネットワークが構築され、その結果として雇用機会の確保などの社会的経験を待っていた。                                    | —            |
| Numerato and Baglioni       | 2011  | スポーツ団体の関係者に焦点を当て、どのようなソーシャル・キャピタルの負の側面が団体の活動を経て形成されているかを検証する。                 | チェコとイタリアのスポーツ団体役員                                  | 半構造化インタビュー                | スポーツ団体、排他性                       | スポーツ団体の役員と団体内外の関係者のネットワークの結びつきが強くなり、その結果として関係者間の信頼関係を団体のガバナンスに活用することがあり、より限られた関係者間でのソーシャル・キャピタルを形成して、排他性を生じる可能性がある。                         | スポーツ組織の体質    |
| Peachey et al.              | 2011  | ソーシャル・キャピタルに着目し、ストリートサッカークーイイベントの参加ボランティアへの社会的影響を検証する。                        | イベント運営に参加したボランティア                                  | フォーカス・グループインタビュー          | スポーツ・ボランティア、関係構築                 | 参加ボランティアは活動を通じて、ホームレスへの理解を深め、関係を構築する意識を高め、ソーシャル・キャピタルを形成する基地を強化していた。                                                                        | 社会的包摂        |
| Spaaij                      | 2012  | 移民がクレーン・コン・スポーツへの参加を通じて、ソーシャル・キャピタルを形成し、社会的包摂を果たすことを明らかにする。                   | ソマリ系オーストラリア人                                       | 半構造化インタビュー                | スポーツ参加、ネットワーク                    | 現地住民と共にスポーツ参加する経験を経て、結束型・標準化型のソーシャル・キャピタルが、地域におけるネットワーク構築を促すリンク型のソーシャル・キャピタルへと派生することが明らかとなった。                                               | 社会的包摂        |
| Adams                       | 2014  | 任意団体・スポーツクラブを対象に、クラブに関わる個人が形成するソーシャル・キャピタルの要因について検証する。                        | イングランドにおける地域スポーツクラブの関係者、行政関係者                      | 半構造化インタビュー                | スポーツクラブ、クラブ運営                    | スポーツクラブの運営を通じて形成された個人・レベルでのソーシャル・キャピタルが、社会・レベルでのソーシャル・キャピタルの形成に寄与する。                                                                        | コミュニティ形成への寄与 |
| Darcy et al.                | 2014  | オーストラリア国内のスポーツ団体の関係者間におけるソーシャル・キャピタルの形成を検証する。                                 | Surf Life Saving Australiaメンバー                     | フォーカス・グループ・インタビュー         | スポーツ団体、ネットワーク、人的資源               | スポーツ団体に関わるボランティアやスタッフ・ホルダーのネットワークが組織の事業を通じて形成され、ソーシャル・キャピタルとしての資源が並行して蓄積されている。                                                              | スポーツ組織の体質    |
| Breuning et al.             | 2015  | スポーツを通じてサービズ・ラーニングプログラムに参加した学生リーダーを対象に、肯定的なソーシャル・キャピタルの形成の過程を明らかにする。          | 開発のためのスポーツイベントに参加した学生                              | 半構造化インタビュー                | スポーツ・ボランティア、イベント参加               | ほとんどの学生において、結束型・標準化型の面でのソーシャル・キャピタルの形成が進んだ。イベントへの参加を通じて、質的・量的に同質・異質な他者との関わりが、ソーシャル・キャピタルの形成を見ていた。                                           | 社会的包摂        |
| Peachey et al.              | 2015a | 多国籍における開発のためのスポーツイベントへの参加が、ボランティアのソーシャル・キャピタルの形成に寄与するかを検証する。                  | 開発のためのスポーツイベントに関わるボランティア                           | 個人インタビュー・フォーカス・グループインタビュー | スポーツ・ボランティア、関係構築、互酬性             | 開発のためのスポーツイベントによって、参加ボランティア同士が関係性を築くことが学習されただけでなく、関係者のソーシャル・キャピタルの形成に影響がおよびていた。                                                             | 社会的包摂        |
| Peachey et al.              | 2015b | 開発のためのスポーツイベントが、関係者のコミュニティやソーシャル・キャピタルの形成について、有用であることを検証する。                   | 開発のためのスポーツイベント関係者                                  | フォーカス・グループ・インタビュー         | イベント参加                           | 開発のためのスポーツイベントによって、人間関係の迅速期を生み出してコミュニティをもちたしただけでなく、関係者のソーシャル・キャピタルの形成に寄与がおよびていた。                                                            | 社会的包摂        |
| Hayton                      | 2016  | スポーツ系大学の学生ボランティアが、ボランティア・プロジェクトの活動対象とどの効果的な人間関係を築いているかを検証する。                  | プロジェクトに参加している・コース・イニシアチブ・プロジェクトにあるスポーツ系大学の学生ボランティア | 半構造化インタビュー                | ボランティア・プロジェクトへの参加                | 学生ボランティアは、プロジェクトへの関わりが深くなるプロジェクトの枠を超えた多様な人々との関わりをもつようになり、その過程で信頼関係や協働関係といったソーシャル・キャピタルの形成が進んでいた。                                            | 社会的包摂        |
| Whittaker and Holland-Smith | 2016  | 保護者のスポーツ・ボランティア活動を対象とし、活動を通じて形成されるソーシャル・キャピタルを明らかにする。                         | 保護者のスポーツ・ボランティア活動者                                 | 半構造化インタビュー                | スポーツ・ボランティア、排他性、集団的アイデンティティ、関係構築 | 既に活動している保護者がある新しいメンバーを勧誘する過程において、ソーシャル・キャピタルの排他的な側面が形成され、この負の側面がボランティアグループのアイデンティティを結びつき、グループ内での脆弱的な人間関係が構築されている。                           | スポーツ組織の体質    |

さらに、「資本としてのソーシャル・キャピタル」の側面を重視し、独立変数として検証を行っている研究もみられる。Prins et al. (2012) は、青少年のソーシャル・キャピタルの形成がスポーツ参加を促すことを示しており、Marlier et al. (2015) は、スポーツ参加とソーシャル・キャピタルの形成が、個人のメンタルヘルスを改善することに有効であることを主張している。また、Sjaedi and Nia (2015) はスポーツ行政の職場において、個人のソーシャル・キャピタルが職場のパフォーマンスに影響を及ぼすと述べている。Coleman (1988) が示した、ソーシャル・キャピタルが意図的に投資できる資本としての性質を有していることを支持すれば、ソーシャル・キャピタルを有効活用し、スポーツ参加をはじめとした地域スポーツの活性化など、さらに知見の蓄積が進むべきであろう。

以上、スポーツとソーシャル・キャピタルの関係性についての研究トピックを、質的・量的研究に分けて動向を整理してきた。質的に検証を行っている研究においては、「社会的包摂」、「コミュニティ形成への寄与」をトピックとした研究が多くみられた。スポーツやボランティアを通じて、人々、あるいは地域においてどのようにソーシャル・キャピタルが形成され、また活用されるかという過程を子細に検証しようという意図から、これらのトピックに注目が集まっていると考えられる。量的に検証を行っている研究においては、「ソーシャル・キャピタル形成の比較」をトピックとした研究が多くみられた。スポーツに関する様々な事象を比較要因として、ソーシャル・キャピタルの形成に差がみられるかという関心が多く集まっている。一方、金子 (2009) や森岡 (2011) が主張するように、ソーシャル・キャピタルを“資本”として捉えている以上、ソーシャル・キャピタルが何らかの問題解決に有効であることを実証的に検証するという研究課題がある。「資本としてのソーシャル・キャピタル」と捉えた実証的研究は限られており、今後も研究の余地が残されている。

## 5. 総合型地域スポーツクラブに関する研究の動向

先行研究の収集にあたっては、文献検索データベースの「CiNii」と「J-STAGE」を用いた。文献検索をする際には、CiNii では詳細検索の「タイトル」、J-STAGE では資料種別の「ジャーナル」と詳細検索の「標題」で検索範囲を制限し、「総合型地域スポーツクラブ」をキーワードとした。検索の結果、CiNii では25件、J-STAGE では9件が該当した。また、J-STAGE の検索結果9件は、全てがCiNii の検索結果25件に重複していた。検索結果のうち炭谷 (2012) は、総合型クラブを対象としたレビューを行っており、研究のトピックを「総合型クラブのマネジメント」と「総合型クラブの意義」に分類できるとしている。本研究においても、この分類区分を参考にしながら、他の分類も含めて検討する。

表4は、「総合型地域スポーツクラブ」をキーワードとした検索結果の研究をまとめたものであり、検索結果を概観すると「総合型クラブのマネジメント」に関する研究が多くみられた。そのため、より研究トピックを明確にするために、山口 (2006) が総合型クラブの運営における促進要因としてあげている「人的資源 (ヒト)」、「物的資源 (モノ)」、「財務 (カネ)」、「情報」の観点から整理を試みることとした。その結果、最も多かったのは「人的資源

(ヒト)」に関する研究であり、運営スタッフやクラブ会員、地域住民、クラブ外の関係者等に着眼している。特にクラブマネジャーをはじめとした運営スタッフに着目した研究 (後藤・森阪, 2006; 西原, 2012; 曾根・折本, 2007; 行實・清水, 2003) が多くみられ、活動支援のあり方の検証、批判的検証のいずれにおいてもクラブマネジメントの中心的立場として研究対象としての注目を集めている。次いで、クラブ会員や地域住民といった活動者に着目した研究 (荒木・中村, 2013; 藤田, 2012; 行實・中西, 2009) があり、会員の運営参加の可能性、親子や障害者といった新たな層の参加を模索している。また、行政担当者や学校関係者などクラブ外の関係者との関係性に着眼した研究 (作野・清水, 2001; 谷口, 2014; 富山ら, 2002) においては、クラブの設立や運営を進めていく上での利害関係の調整や解決に向けての過程の検証を行っている。「財務 (カネ)」に関する研究においては、中村ら (2003) が健全なクラブ運営に向けての会計試案を示しており、様々な経費と事業収入・会費収入の対応を明確にするべきであると指摘している。また原ら (2012) や佐藤ら (2008) は、クラブのプログラムを導入する際の会員への負担額の検証を行っており、クラブが事業収入によって財源を十分に確保するうえで実践的な知見を示している。「物的資本 (モノ)」に関する研究 (松橋・金子, 2012) は少ないが、学校体育施設開放事業を委託されているNPO 法人格を有する総合型クラブを対象に、学校体育施設の利用における「共有地のジレンマ状態」を克服するうえで、クラブの法人格の取得による自律的な解決を提示している。

「総合型クラブの意義」に関する研究 (後藤, 2008; 嘉門, 2016; 小林, 2012; 関根ら, 2009) においては、総合型クラブの設立・育成に当たって、地域住民の生活や地域課題との関係性に着眼している。後藤 (2008) は、農山村部を対象として伝統的なコミュニティが弱体化していく中で、スポーツを実践する中でも強い土着性を基盤とする共同的生活様式が色濃く残っていることを示している。また関根ら (2009) は、地域スポーツ団体関係者が総合型クラブの設立と既存の地域活動との間に不整合を認めながらも、地域住民に対して説得・納得という作業を繰り返してきたことを指摘している。さらに嘉門 (2016) は、クラブの設立においては行政の要請を受けながら、健康問題を始めとした地域課題を対応していくようにクラブの拡充を進めていく過程を明らかにしている。

以上、総合型クラブに関する研究の動向として、「総合型クラブのマネジメントに関する研究」と「総合型クラブの意義に関する研究」という大きく2つの流れがみられた。「総合型クラブのマネジメントに関する研究」においては、「人的資本 (ヒト)」、「財務 (カネ)」、「物的資本 (モノ)」に焦点をあてた研究がみられ、特に「人的資本 (ヒト)」に焦点をあてた研究が多くみられた。山口 (2006) が指摘するように、人的資本はクラブ運営を促進するうえで特に重要であり、運営スタッフ、活動者が研究対象として注目を集めていた。また「総合型クラブの意義に関する研究」では、総合型クラブの設立・育成と地域生活との関係性を検証している研究が占めていた。いずれの研究も質的アプローチを通じて、総合型クラブの設立・育成過程において、地域住民・行政担当者が地域生活の文脈に総合型クラブの存在を位置づけていく側面を検

表 3. スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向 (量的研究)

| 著者               | 年     | 研究目的                                                                 | 調査対象                       | 調査方法                                                                | ソーシャル・キャピタルの指標                                      | 分析方法                   | 結果                                                                                                      | カテゴリ         |
|------------------|-------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| Seppel           | 2006  | ソーシャル・キャピタルの概念を通して、スポーツクラブの社会的・政治的影響を明らかにする。                         | 16歳から65歳<br>(ノルウェー国内)      | 質問紙調査                                                               | 一般的信頼、政治的関心                                         | ロジスティック回帰分析            | スポーツクラブに所属することが、一般的信頼・政治的関心に基づきソーシャル・キャピタルを形成することとなる。                                                   | コミュニティ形成への寄与 |
| Harvey et al.    | 2007  | スポーツボランティアと、信頼できる社会ネットワークに参加できる資源としてのソーシャル・キャピタルとの関係を明らかにする。         | スポーツ団体のボランティアスタッフ          | 質問紙調査                                                               | ボランティア参加                                            | t検定、一元配置分散分析           | ソーシャル・キャピタルはスポーツボランティアを通してのネットワークによって生み出され、性別・年齢によって差がみられた。                                             | SC形成の比較      |
| Perks            | 2007  | 青年期におけるスポーツ経験による、地域活動への好意的な予見に対しての影響を検証する。                           | 25歳以上の成人<br>(カナダ国内)        | National Survey of Giving, Volunteering and Participating<br>(二次分析) | 非公式のボランティア、公式のボランティア、寄付、選挙への投票、ニュースへの関心、友人・知人とのつきあい | t検定、一元配置分散分析           | 青年期のスポーツ参加が、成人期のコミュニティ参加に良い影響をもたらしている。                                                                  | コミュニティ形成への寄与 |
| Seppel           | 2008  | 多様な地域団体間のネットワークにおいて、スポーツ組織の中心性と影響を明らかにする。                            | 地域団体への加入状況<br>(ノルウェーの政府調査) | ネットワーク分析                                                            | スポーツ、宗教、芸術・音楽、商業、政治環境、職業、家族グループへの参加                 | BNC (Bosouchi)による中心性分析 | 1982年から2003年にかけての社会変化によって、スポーツ組織が他の団体・組織との関係性の中で、最も中心性を獲得しており、多様な団体とのネットワークからソーシャル・キャピタルの形成が期待できる。      | SC形成の比較      |
| 長瀬ら              | 2008a | ソーシャル・キャピタルに着目し、地域スポーツクラブがコミュニティにもたらす影響について明らかにする。                   | 地域スポーツクラブ会員                | 質問紙調査                                                               | 規範、信頼、ネットワーク                                        | 構造方程式モデリング             | スポーツクラブへの参加を通してソーシャル・キャピタルが高まり、ソーシャル・キャピタルが高まるとコミュニティへの帰属意識が高まる。                                        | コミュニティ形成への寄与 |
| 行實・中西            | 2009  | 総合型地域スポーツクラブ会員の選挙参加に注目し、形成されるソーシャル・キャピタルの要因と、会員の選挙参加との関係性を検証する。      | MPD法人特を有する総合型クラブ会員         | 質問紙調査                                                               | 自立性・透明性・信頼関係性・互酬性規範、ネットワーク                          | 主成分分析、t検定、相関係数         | 会員のソーシャル・キャピタルの要因として、自立性・透明性・信頼関係性・互酬性の規範、ネットワークが確認され、多様な選挙参加内容を担う会員のソーシャル・キャピタル形成に寄与する。                | SC形成の比較      |
| Olayesu et al.   | 2010  | 地域スポーツクラブのタイプと所在地の違いによるソーシャル・キャピタル形成への影響を検証する。                       | 地域スポーツクラブ会員                | 質問紙調査                                                               | 信頼、ネットワーク、互酬性                                       | 一元配置分散分析               | 総合型の地域スポーツクラブの会員の方が、単一型の地域スポーツクラブの会員に比べてソーシャル・キャピタルの形成が進んでいる。                                           | SC形成の比較      |
| 仲谷               | 2012  | 登山村型における総合型クラブの会員を対象とし、クラブの設立前後でソーシャル・キャピタルに変化が生じたかを明らかにする。          | 総合型クラブ会員                   | 質問紙調査                                                               | 信頼、つきあい、社会参加                                        | 因子分析、t検定               | 総合型クラブ設立後において、地味落胆の交流機会が創出されつきあいが高まり、クラブの活動を通じて「信頼」が高まった。                                               | SC形成の比較      |
| Prins et al.     | 2012  | 青少年の会館活動としてのスポーツ参加に対して、ソーシャル・キャピタル、スポーツ施設の利用可能性の影響を検証する。             | 12、13歳の子ども                 | YouAction<br>(ロンドン・ダナム・ユース・スポーツ・調査)<br>(二次分析)                       | 近隣住民との関わり、近隣住民の結束                                   | 多項ロジスティック回帰分析          | 青少年のスポーツ参加に対してスポーツ施設の利用可能性は影響を及ぼさず、ソーシャル・キャピタルのみが正の影響をもたらしていた。                                          | 資本としてOSC     |
| Lee et al.       | 2012  | ソーシャル・キャピタルを含めた、スポーツに関連するの社会的影響の測定尺度の開発をする。                          | 大学生                        | 質問紙調査                                                               | 地域社会への参加、社会的背景における対応、信頼・ネットワーク、多様性への寛容              | 構造方程式モデリング             | 地域スポーツへの参加頻度が高まるとソーシャル・キャピタルに好影響をもたらす。TVのスポーツ観戦頻度、TVゲームのプレイ頻度が低いと、ソーシャル・キャピタルに悪影響がみられる。                 | コミュニティ形成への寄与 |
| Nicholson et al. | 2013  | 地域住民がスポーツクラブや地域団体に参加することによって得られる社会的な意思として、ソーシャル・キャピタルが形成されているかを検証する。 | オーストラリア・ヴィクトリア州の住民         | 質問紙調査                                                               | 社会的支援                                               | 階層的重回帰分析               | 地域団体への参加に比べ、スポーツクラブへの参加の方がソーシャル・キャピタルや社会的ネットワーク構築に有効であることが示された。                                         | SC形成の比較      |
| Gibson et al.    | 2014  | FFA2010W杯開催の前後において、現地住民の心理的負担とソーシャル・キャピタルの認知について比較する。                | FFA W杯の10次大会ホスト都市の住民       | 質問紙調査                                                               | 共同行動、信頼・安全性、社会的交流、多様性への寛容、人生への価値                    | 分散分析                   | 心理的負担は開催前より開催後に全般的に向上し、ソーシャル・キャピタルは開催前より開催後において低下している。ただし、大会にボランティアとして参加した若年層においては、ソーシャル・キャピタルの向上がみられた。 | SC形成の比較      |
| Prins et al.     | 2014  | 定期的なスポーツ参加によって形成されたソーシャル・キャピタルによる、個人認識と規範意識に対する影響を検証する。              | 12、13歳の子ども                 | YouAction<br>(ロンドン・ダナム・ユース・スポーツ・調査)<br>(二次分析)                       | 近隣住民の仲の良さ、近隣住民の結束                                   | 多項ロジスティック回帰分析          | スポーツ経験を通して形成されたソーシャル・キャピタルが規範意識に対して影響をおよぼしていた。                                                          | コミュニティ形成への寄与 |
| 飯田・飯田            | 2015  | 地域社会におけるスポーツ参加によって形成されたソーシャル・キャピタル意識の関連をSEM分析により検証モデルを提示・検討すること。     | 体操クラブ会員                    | 質問紙調査                                                               | 信頼、つきあい、交流、社会参加                                     | 構造方程式モデリング             | ソーシャル・キャピタル指標のうち、社会参加がつきあい・交流を促し、信頼やクラブに対する重要性に影響を及ぼしている。                                               | 資本としてOSC     |
| Merlier et al.   | 2015  | スポーツ参加・身体活動、ソーシャル・キャピタル、メンタルヘルスの間の影響を1つのモデルで検証する。                    | 18〜56歳の住民                  | 質問紙調査                                                               | コミュニティ・ソーシャル・キャピタル、個人のソーシャル・キャピタル                   | 構造方程式モデリング             | スポーツ参加とコミュニティ・ソーシャル・キャピタル、個人のソーシャル・キャピタルがメンタルヘルスを改善するうえで強い影響がみられた。                                      | 資本としてOSC     |
| Rowland et al.   | 2015  | 地域スポーツクラブの会費を対象に、アルコール消費行動がソーシャル・キャピタル形成に及ぼす影響を検証する。                 | オーストラリアにおける地域スポーツクラブの会員    | The Australian Household National Survey<br>(二次分析)                  | クラブへの参加、信頼、安心                                       | 構造方程式モデリング             | アルコール消費行動が改善すると、クラブでのスポーツ参加や安心感といったソーシャル・キャピタルが高まる。リスクリケを伴うほどのアルコール摂取は、ソーシャル・キャピタルの低下につながる。             | コミュニティ形成への寄与 |
| Spied and Nla    | 2015  | ソーシャル・キャピタルとスポーツ・青少年関係者の継続的な「パワー」への関係性を明らかにする。                       | スポーツ・青少年の管理職、専門官、公務員       | 質問紙調査                                                               | 信頼、ネットワーク、協力、人間関係、価値、相互理解、責任                        | 相関分析                   | スポーツ・青少年のスタッフ間における「ソーシャル・キャピタル」は、組織的「パワー」で有意に正の相関がみられ、ソーシャル・キャピタルにより組織「パワー」を予測することができる。                 | 資本としてOSC     |

表 4. 総合型地域スポーツクラブに関する研究の動向

| 著者    | 年    | 研究目的                                                                                              | 研究対象                         | 調査方法             | 結果                                                                                                                                                                                | 分類               |
|-------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 作野・清水 | 2001 | 総合型クラブの組織化プロセスにおける行政職員の効果的な行動を明らかにする。                                                             | スポーツ担当行政職員                   | 半構造化インタビュー／質問紙調査 | クラブ有期における行政職員の行動は、調整・支持拡大・討議決定・情報活性化・信頼関係・配慮・連絡通調・情報提供といった8次元から構成されていた。また、行政職員の行動は、クラブ設立メンバーによる問題認知から関係構築までの局面、さらに変革意図の局面において有効であった。                                              | マネジメント<br>(人的資本) |
| 高山ら   | 2002 | 総合型クラブの設立において生じる組織間・コンフリクト類型化を行うことにより、コンフリクトマネジメントの方策を検討するための基礎資料を得ること。                           | 総合型クラブ育成モデル事業実施地区の事例         | 半構造化インタビュー       | 無関係型・関連型・和類型・協働型・協力型という類型化が示された。総合型クラブの設立を真の意味での組織間関係の構築として意義を見出すのであれば、コンフリクトを肯定し、どのような協力関係を築くかの議論を進めることが重要である。                                                                   | マネジメント<br>(人的資本) |
| 中村ら   | 2003 | 文部科学省の総合型クラブ育成事業の補助金を受けたクラブを対象として、補助金等の公的資金の投資効果や評価面に関する今後の政策提言することを目指すとしている。                     | 総合型クラブ育成モデル事業対象クラブ(1市4地区)    | 資料収集／半構造化インタビュー  | 各種型が事業費・管理費・経費等のいづれに必要とするかを区分し、事業収入あるいは会費収入との対応を明確にできるようにして、いかに事業を主張している。                                                                                                         | マネジメント<br>(財務)   |
| 行實・清水 | 2003 | 総合型クラブのNPO法人格取得過程における意思決定方式が取られた背景と、法上格取得の検討を中心とした進め方に関する期待の内容を確認する。                              | NPO法人格を有する総合型クラブ／クラブマネジャー    | 資料収集／半構造化インタビュー  | 一般役員による運営方針と会員の無関心・体面・クラブ理念が不明瞭となっていた背景があり、NPO法人格化を通じて助成金や施設の管理費を期待し、企業経営者の意識に拍車がかかっていることが示された。                                                                                   | マネジメント<br>(人的資本) |
| 中澤・青木 | 2004 | 静岡県において展開されている文部科学省が推進する総合型地域スポーツクラブ事業の現状と課題を確認している。                                              | 静岡県内の総合型クラブ                  | フィールドワーク         | 今後の活動展開として、クラブハウスの活用、財源の確保、クラブマネジャー等の人材育成の必要性、地域住民からのボトム・アップ型の活動・運営体制を整えていくことの必要性をあげている。                                                                                          | マネジメント<br>(人的資本) |
| 菅根    | 2005 | 総合型クラブの設立から現在に至る運営役員と住民の意識変化や関係性に着目し、クラブの成長戦略を探る基礎情報を得て、クラブと住民との関係性から将来的なマーケティングの構築を検討する。         | 広島県内の総合型クラブ                  | 半構造化インタビュー／資料収集  | クラブのミッションに反して高齢者のクラブへの参加が少ないことが示され、その背景として高齢者が参加するだけの利便性が確保されていないことが明らかとなった。これは、山間部のクラブでは多くみられる事例であり、クラブ設立の際に対処されずに会員が伸び悩むことになっている。クラブ独自での解決は困難であり、行政との協働が望まれる。                   | マネジメント<br>(人的資本) |
| 後藤・森阪 | 2006 | 総合型クラブの育成過程に着目し、クラブ育成のための会議における参加観察や会話データベースの分析を通じて、クラブの育成を目的とした人々の方法を検証する。                       | 総合型クラブ設立研究員会メンバー             | 参加観察             | 対象とした地域スポーツ振興において、総合型クラブの正当性を確保するために中心メンバーの社会的立場を活用しながら、また、地域生活者の声を反映するために既存クラブに対する優位性を確保し、公共施設や公園間の優先利用を可能にしている。                                                                 | マネジメント<br>(人的資本) |
| 菅根・折本 | 2007 | 総合型クラブの「1対1」に関するマネジメントの観点から、クラブの継続・成長を促す一助となる理論的基礎データの構築を図ること。                                    | 総合型クラブ                       | 質問紙調査            | NPO法人格取得がスタッフの信頼感を高め、クラブ運営とも正の相関がうかがえた。また、クラブ設立によって地域に信頼感・親密感といった側面には好影響を及ぼしていることが示された。                                                                                           | マネジメント<br>(人的資本) |
| 後藤    | 2008 | 黒山村間の総合型クラブを対象に、スポーツ実践者を地域社会の中での生活者として捉え、活構造分析から生活とスポーツ実践の関係性を検証する。                               | 総合型クラブ                       | 半構造化インタビュー／質問紙調査 | 伝統的なマサムネ構造が弱体化し、都市への依存度が強まる中で、地域活動が残存していることが示された。そのような背景のもと、スポーツを実施するうえで強い土着性を基盤とする共同的生活実践があることが推察される。                                                                            | マネジメント<br>(人的資本) |
| 佐藤ら   | 2008 | 総合型クラブの新たな事業づくり事業導入に向けて、追加会費の支払い意思を測定することで、事業導入の可能性を検証する。                                         | 総合型クラブ役員                     | 質問紙調査            | 財政運営プログラムの導入に対する支払意思が最も高く、さらに専門の指導者を導入してのプログラムやスタッフ研修に対して、サービスの質が高まることを期待して、支払意思が高い値を示した。                                                                                         | マネジメント<br>(財務)   |
| 照根ら   | 2009 | 行政主導でもたらされた総合型クラブの設立を地域住民が受容する際の背景と、地域生活の内実との関係性を検証する。                                            | 塩田コミュニティクラブ(日上市総合型クラブ)／クラブ役員 | 半構造化インタビュー       | 従来の活動の「改善」、従来の活動の「類似」、助成金が得られること・適時に市に上りといった論理を通じて地域住民に対して、説得・納得を求めていることが示された。また、これら3つの論理は相互には不整合でありながらも、地域らしさという方向性を強調することによって、一定の方向性の意味づけが可能としている。                              | 総合型クラブの意義        |
| 行實・中西 | 2009 | 総合型地域スポーツクラブ委員の運営参加に注目し、形成されるソーシャル・キャピタルの要因と、委員の運営参加ととの関係性を検証する。                                  | NPO法人総合型クラブ役員                | 質問紙調査            | 委員のソーシャル・キャピタルの要因として、自立的・連帯性・信頼関係性・互助性の規範、ネットワークが確認され、多様な運営参加内容を持つ委員がソーシャル・キャピタル形成に寄与する。                                                                                          | マネジメント<br>(人的資本) |
| 藤田    | 2012 | 総合型クラブへの障害者の参加実態を全国レベルで把握し、障害者の参加形態ごとに総合型クラブの特徴を明らかにする。                                           | 総合型クラブ                       | 質問紙調査            | 障害者の参加が進んでいるクラブは、会員数や予算規模が大きく、法人格を有している場合が多かった。さらに、行政からの支援、ボランティアの確保、他組織との連携を通じて外部資源を有効利用して、障害者の受け入れ態勢を整えていることが明らかとなった。                                                           | マネジメント<br>(人的資本) |
| 原ら    | 2012 | 総合型クラブの新たな事業を導入するうえでの支払意思調査を通じて、最大の市場規模を明らかにする。                                                   | 総合型クラブ所在地の小中学校に通う児童の保護者      | 質問紙調査            | 月額1,000～5,000円で支払意思が最も高く、5,000円を超える場合の増加分岐点の会員数が199名であった。総合型クラブの今後の会員確保と財源確保に向けて有効な手段となると考えられる。                                                                                   | マネジメント<br>(財務)   |
| 小林    | 2012 | 自治体が抱える問題解決における総合型クラブの位置づけを示し、行政と住民の間におけるクラブ設立に伴う問題設定の両方について検証している。                               | 八王子市内の総合型クラブ                 | 半構造化インタビュー／資料収集  | クラブ設立の前提として、利害関係の社会的規範が決定的に及ぼしており、問題設定を行う際に行政組織の政治的操作が働いている。自治体が抱える問題解決全体の中でクラブ設立がどのように位置づけられ、クラブの育成がスポーツ実践に寄与するのかという議論から開始する必要がある。                                               | 総合型クラブの意義        |
| 松根・金子 | 2012 | 学校体育施設開放事業を委託しているNPO法人格クラブに焦点を当て、学校体育施設の利用者のジレンマ状態、あるいは行政と事業委託されるNPO法人格クラブの間のジレンマ状態を解消できる手法を検証する。 | NPO法人格を有する総合型クラブ／クラブマネジャー    | 質問紙調査／半構造化インタビュー | 2つの「共有地のジレンマ状態」を解決するために、行政がNPO法人格クラブに対して学校体育施設開放事業の管理における執行権限の一部を付与し、管理業務における役割を付与するなどの制度的な方策をとること、また、その役割を付与されたNPO法人格クラブが利用者の自発的な執行を促進することが重要である。                                | マネジメント<br>(物的資本) |
| 西原    | 2012 | 総合型クラブのクラブマネジャーを対象とし、創造的なクラブ運営の実践としての気づきに着目して、学びの過程を検証する。                                         | 総合型クラブクラブマネジャー               | 半構造化インタビュー       | クラブマネジャーの実践からの学びとして、初期の関わり・責任・葛藤から自立・継続性への構築、他者との関係構築といった要素が導き出された。                                                                                                               | マネジメント<br>(人的資本) |
| 秋合    | 2012 | 総合型クラブを対象とした研究が明らかにしてきた知見を分類し、展望と今後の展望を示す。                                                        | 総合型クラブを対象とした学術論文             | 資料(文献)収集         | 総合型クラブのマネジメントに関する研究が総合型クラブの意義に関する研究の2つに本別できる。そして、スポーツ振興基本計画(文部科学省、2008)において示されている総合型クラブの要件と、設立に関する期待されている効果に焦点化されている。                                                             | —                |
| 荒木・中村 | 2013 | 地域住民が主導した親子参加型の総合型クラブの事例について、設立背景、設立準備、運営方法を検証している。                                               | 総合型クラブ運営スタッフ                 | 半構造化インタビュー       | 子どもと運動能力低下の問題を認識する保護者から主導となり、保護者連自らが指導者としてクラブの指導体制の安定を図った。小学校施設を利用することにより、スタッフもすべてボランティアであったことが、立ち上げ時の費用を最小限にとどめることが可能であった。指導者としてクラブに残ってくれる保護者も出てくるなど、地域社会での互助関係が築かれるようになったとしている。 | マネジメント<br>(人的資本) |
| 谷口    | 2014 | 総合型クラブにおいて前活動とクラブの関係構築を成しながら、結果的に関係性を消滅するに至った失敗事例に着目し、教員の前活動と学校外の総合型クラブに対する意識を明らかにしている。           | 総合型クラブに関与した学校関係者             | 半構造化インタビュー       | 教員文化論を踏まえ、教員を取り巻く現状の志向性が、クラブとの関係による新たな職務・業務への反発や、勤務評価をめぐる曖昧かつ無暗な制度状況、さらには前活動指導者をめぐる教員の権威の低下による不満に至ったとしている。                                                                        | マネジメント<br>(人的資本) |
| 黒川    | 2015 | 総合型クラブの財政基盤として、外部資源の獲得・自発的運営の確立といった方向性を、三重県内の総合型クラブの現状を踏まえ検証する。                                   | 三重県内の総合型クラブ                  | 質問紙調査(自由回答)      | 総合型クラブの財政基盤は、身の丈の運営と業務委託による財源確保という二重化が進んでいる。それぞれの規模において社会的自立を目指していることは変わりがない。行政とクラブとの協働を進めてコミュニティ形成のインフラストラクチャーとして育成を進めていくことが重要である。                                               | マネジメント<br>(人的資本) |
| 菊門    | 2016 | 総合型クラブの運営をめぐる地域住民の意識に注目し、生活を前提とした住民の論議とスポーツ振興を前提とした総合型クラブの運営の関係性を検証している。                          | 地区住民、総合型クラブ・自治組織・行政・市民団体関係者  | 半構造化インタビュー       | 行政の動向によって地区住民がクラブの設立を行い、従来の地域スポーツ振興としての位置づけを便ちながら、高齢者の健康問題を始めとした、地域の生活課題に対して対応できるようにクラブの拡充政策を転換していく過程を明らかにしている。                                                                   | 総合型クラブの意義        |

証していた。

## 6. 総合型地域スポーツクラブを対象としたソーシャル・キャピタル論の有効性と課題

本研究の目的は、総合型クラブを対象とした研究においてソーシャル・キャピタル論の援用の有効性と課題について、文献レビューを通して検証することであった。その研究目的を達成するために、「ソーシャル・キャピタルの定義をめぐる議論の概観」、「スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向」、「総合型クラブに関する研究の動向」に分けて、レビューと研究トピックの分類を試みた。「ソーシャル・キャピタルの定義をめぐる議論の概観」では、ソーシャル・キャピタルという用語の定義に関し、おおよそ「信頼」、「規範」、「ネットワーク」といった下位概念を含んではいるもののコンセンサスはない。特に、社会学の分野でミクロな視点で論じられてきた側面と、政治学の分野でマクロな視点で論じられてきた側面に大きな違いが認められた。ミクロな視点でソーシャル・キャピタルを捉える研究では、個人・組織が他者・外部組織との信頼、互酬性の規範を伴うネットワークを築き、有形・無形の成果を生み出す資本としての性格が着目されている。社会学から経営学、経済学にソーシャル・キャピタルの援用が進むと、より実利的な目的のために投資される資本としての性格が強調されている。一方、マクロな視点でソーシャル・キャピタルを捉える研究では、国や地域（一定以上の行政区分）を対象として、主に行政施策の効率的な波及を促す要因として扱われている。近年では、国際的な開発援助事業を対象として、事業を展開していく上で現地の重要な素地として調査・報告が行われている。これらの傾向から、Ostorn and Ahn (2003) が指摘する、ソーシャル・キャピタルのミクロ・マクロレベルでの捉え方を踏まえ、ソーシャル・キャピタルとの関連性を扱う対象や分野によって、定義の仕方を検討しなければならない。特に、ソーシャル・キャピタルを定量的に捉える研究においては、定義の内容が測定指標に直接反映されるので、研究対象に即した定義の設定が必要となる。

「スポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル研究の動向」では、ソーシャル・キャピタルを質的・量的にとらえる研究に分類して研究の動向を整理した。まず質的研究においては、「社会的包摂」、「コミュニティ形成」、「スポーツ組織の体質」、「地域スポーツへの貢献」といった研究トピックがみられた。特に「社会的包摂」と「コミュニティ形成」をトピックとした研究が多くみられ、地域スポーツ、スポーツ・ボランティア等の活動の中で、そこに関わる人々の間でソーシャル・キャピタルが形成される過程や要因を詳細に検証しようとする傾向がみられる。また、「スポーツ組織の体質」や「地域スポーツへの貢献」に着目した研究においては、ソーシャル・キャピタルの形成の方向性によって、スポーツ団体やスポーツクラブにとってプラスにもマイナスにも作用する可能性があることを指摘している。量的研究においては、「ソーシャル・キャピタル形成の比較」、「コミュニティ形成への寄与」、「資本としてのソーシャル・キャピタル」といった研究トピックがみられた。特に「ソーシャル・キャピタル形成の比較」に着目した研究が多く、住民調査の二次分析や地域スポーツクラブへの質

問紙調査をもとに、スポーツ参与、地域スポーツクラブへの参加等がソーシャル・キャピタル形成に有効であることを実証している。一方でソーシャル・キャピタルを資本として捉え、独立変数や媒介変数として扱う研究は限られており、ソーシャル・キャピタルを資本として投入するうえで有効な対象を検証していくうえでも、研究の余地が残されている。特に、地域スポーツ振興の事業やスポーツ組織の運営において、ソーシャル・キャピタルがどのような内容に有効であるのかを具体的に示すことができれば、研究の社会的意義が大きいといえる。

「総合型クラブに関する研究の動向」では、「総合型クラブのマネジメント」と「総合型クラブの意義」という研究トピックがみられた。「総合型クラブのマネジメント」に関する研究では、クラブの運営スタッフや会員・地域住民といった活動者、クラブ外の関係者といった「人的資本（ヒト）」が研究対象として注目されていた。これまでの総合型クラブに関する知見においても、ヒトの重要性は強調されてきたが、今回のレビューにおいても同様の傾向が反映されていた。また、少ないながらも財源確保や事業収入の算出といった「財務（カネ）」や、スポーツ施設の有効利用という「物的資本（モノ）」に焦点をあてた研究もみられた。総合型クラブ育成への実践的な知見の必要性を鑑みると、今後より重要視されなければならないといえる。「総合型クラブの意義」に関する研究では、地域生活の課題や価値観に基づいて総合型クラブの設立や、クラブによるスポーツ振興の意義を議論している。行政施策として推進されてきた総合型クラブについて、クラブの住民主導化・地域事情に基づいたクラブ育成を検討するうえで、重要な論点といえる。つまり、総合型クラブを地域住民が主体的に運営するうえで、運営上の課題に対する方策を示すという側面と、行政との協働で地域スポーツ振興をはじめとした諸問題に取り組むコミュニティ形成を促進するという側面に立って、知見が蓄積されることが望まれる。

これらのスポーツ分野におけるソーシャル・キャピタル、および総合型クラブに関する知見をもとに、総合型クラブを対象としてソーシャル・キャピタル論を援用する際の研究課題を示す。第一に、総合型クラブの運営・活動を通して、どのようにソーシャル・キャピタルが形成されるかを検証することである。具体的には、クラブ代表者やクラブマネジャーといった運営スタッフを対象として、どのようなクラブ運営の内容がソーシャル・キャピタルの形成につながっているのか、また、どのような取り組みを経てソーシャル・キャピタルが形成されているかを明らかにすることである。先行研究の検討から、これらを詳細に検証するうえでは質的アプローチが適しているといえる。第二に、総合型クラブの運営スタッフにおいてソーシャル・キャピタルの形成が進むと、具体的にどのような活動内容に差がみられるかを検証することである。先行研究でみられたようにソーシャル・キャピタルの形成自体を比較するのではなく、ソーシャル・キャピタルの形成度合いを分類して具体的にどのような活動評価に差がみられるかを検証する。その結果、総合型クラブが抱える運営課題に対して、ソーシャル・キャピタルが貢献できる内容を示すことができる。第三に、ソーシャル・キャピタルを資本として捉え、総合型クラブの運営・活動に有効であるかを定量的に検証することである。ソー

シャル・キャピタルを明確に独立変数として捉えた研究は限られており、ソーシャル・キャピタルの測定尺度の設定、クラブの運営・評価指標も合わせて検討の余地がある。それらを踏まえ、ソーシャル・キャピタルが総合型クラブの運営に及ぼす影響を定量的に検証し、クラブの形態・規模等の比較を行うという研究課題があげられる。その結果、クラブの育成支援におけるソーシャル・キャピタルの有効性や、具体的な育成支援の取り組みに対する実践的な知見をもたらすことができると考えられる。

#### 参考文献

- Adams, A. (2014) Social capital, network governance and the strategic delivery of grassroots sport in England. *International Review for the Sociology of Sport*, 49(5) : 550-574.
- 鯨坂学 (2006) 地域住民組織と地域ガバナンス. 玉野和志・三本松政之編, 地域社会の政策とガバナンス 地域社会学講座 3, 東進堂 : 東京, pp. 173-187.
- 荒木邦子・中村好男 (2013) 保護者 (みんな) がコーチングスタッフ方式の総合型地域スポーツクラブ : 神奈川県相模原市「やんちゃるジム」の事例. *スポーツ産業学研究*, 23 (1) : 119-125.
- Atherley, K. M. (2006) Sport, localism and social capital in rural Western Australia. *Geographical Research*, 44(4) : 348-360.
- Australian Bureau of Statistics (2006) Aspects of social capital.
- Baker, W. (1990) Market networks and corporate behavior. *American Journal of Sociology*, 96 : 589-625.
- Bourdieu, P. (1986) The forms of capital. In : Richardson, J. G. (Eds.) *Handbook of theory and research for the sociology education*. Greenwood Press : New York, 241-258.
- Bruening, J. E., Peachey, J. W., Evanovich, J. M., Fuller, R. D., Murty, C. J., Percy, V. E., Silverstein, L. A., and Chung, M. (2015) Managing sport for social change : The effects of international design and structure in a sport-based service learning initiative. *Sport Management Review*, 18 : 69-85.
- Burnett, C. (2006) Building social capital through an "Active Community Club". *International Review for the Sociology of Sport*, 41(3) : 283-294.
- Burt, S. R. (1992) *Structural holes : The social structure of competition*. Harvard University Press : Cambridge.
- Canada Statistics (2000) Measurement of social capital.
- Coleman, J. S. (1988) Social capital in the creation of human capital. *The American Journal of Sociology*, 94 : 95-120.
- Collier, P. (1998) Social capital and poverty. *Social Capital Initiative Working Paper*, 4.
- Darcy, S., Maxwell, H., Edwards, M., Onyx, J., and Sherker, S. (2014) More than a sport and volunteer organisation: Investigating social capital development in a sporting organization. *Sport Management Review*, 17 : 395-406.
- Evans, P. (1996) Government action, social capital and development : Reviewing the evidence on synergy. *World Development*, 24(6) : 1119-1132.
- 藤田紀昭 (2012) 障害者の参加形態別にみた総合型地域スポーツクラブの特徴に関する研究. *障害者スポーツ科学*, 10 (1) : 21-34.
- Fukuyama, F. (1995) *Trust : The social virtues and the creation of prosperity*. Free Press : New York.
- Gabbay, S. M. (1997) Social capital in the creation of financial capital : The case of network marketing. *Stripe Publishing* : Champaign.
- Gibson, H. J., Walker, M., Thapa, B., Kaplanidou, K., Geldenhuys, S., and Coetzee, W. (2014) Psychic income and social capital among host nation residents : A pre-post analysis of the 2010 FIFA World Cup in South Africa. *Tourism Management*, 44 : 113-122.
- 後藤貴浩・森阪信樹 (2006) 総合型地域スポーツクラブの育成過程に関する研究 : 育成のための会議における会話データの分析. *体育学研究*, 51 (3) : 299-313.
- 後藤貴浩 (2008) 農山村の生活構造と総合型地域スポーツクラブ : 生活のあり様とスポーツ実践の関係性に着目して. *体育学研究*, 53 (2) : 375-389.
- Granovetter, M. S. (1973) The strength of weak ties. *American Journal of Sociology*, 78 : 1360-1380.
- Grootaert, C. and Bastelaer, V. T. (2001) Understanding and measuring social capital : A synthesis of findings and recommendations from the social capital initiative. *Social Capital Initiative Working Paper*, 24. The World Bank : Washington, D. C.
- Grootaert, C., Narayan, D., Jones, V. N., and Woolcock, M. (2004) Measuring social capital. *World Bank Working Paper*, 18. The World Bank. Washington, D. C.
- Hanifan, L. J. (1916) The rural school community center. *The Annals of the American Academy of Political and Social Science*, 67 : 130-138.
- Halpern, D. (2005) *Social capital*. Polity Press : Cambridge.
- 原豪志・原田和弘・間野義之・中村好男 (2012) 都市部の総合型地域スポーツクラブに小学生を対象とした有料サーキットトレーニングプログラムを導入させる際の市場規模予測 : 東京都江戸川区の事例. *スポーツ産業学研究*, 22 (1) : 131-139.
- Harvey, J., Levesque, M., and Donnelly, P. (2007) Sport volunteerism and social capital. *Sociology of Sport Journal*, 24 : 206-223.
- Hayton, J. (2016) Sports volunteering on University-Led Outreach Projects : A space for developing social capital ? *Journal of Sport and Social Issues*, 40(1) : 38-61.
- Hoye, R. and Nicholson, M. (2009) Social capital and sport

- policies in Australia. *Public Management Review*, 11(4) : 441-460.
- 飯田義明 (2010) 地域社会におけるスポーツ実践とソーシャル・キャピタルの可能性. *社会関係資本研究論集*, 1 : 91-108.
- 飯田義明・飯田路佳 (2015) 地域スポーツ参加者におけるソーシャル・キャピタル意識の検討：中・高齢女性の体操クラブを対象として. *専修大学スポーツ研究所紀要*, 30 : 1-12.
- Jacobs, J. (1961) *The death and life of great American cities*. Random House : New York.
- Jarvie, G. (2003) Communitarianism, sport and social capital : Neighbourly insights into Scottish sport. *International Review for the Sociology of Sport*, 38(2) : 139-153.
- 鹿毛利枝子 (2002) 「ソーシャル・キャピタル」をめぐる研究動向 (一) : アメリカ社会における三つの「ソーシャル・キャピタル」. *法学論叢*, 151 (3) : 101-119.
- 嘉門良亮 (2016) 総合型地域スポーツクラブ政策の地域的「転換」過程：縮小社会化する企業城下町・日立の事例. *スポーツ社会学研究*, 24 (1) : 63-78.
- Kay, T. and Bradbury, S. (2009) Youth sport volunteering : Developing social capital? *Sport Education and Society*, 14(1) : 121-140.
- 経済企画庁 (1973) *経済社会基本計画：活力ある福祉社会のために*.
- Kobayashi, T., Nicholson, M. and Hoye, R. (2011) Football 'wantok' : Sport and social capital in Vanuatu. *International Sociology of Sport*, 48(1) : 38-53.
- 小林勉 (2012) 空転するスポーツ振興政策の現実：総合型地域スポーツクラブをめぐるすれ違う関係者たちの問題設定. *スポーツ社会学研究*, 20 (1) : 49-61.
- 国際協力事業団 (2002) *ソーシャル・キャピタルと国際協力（総論編）*.
- 近藤克則, JAGES プロジェクト (2014) 健康格差と健康の社会的決定要因の「見える化」. *医療と社会*, 24 (1) : 5-20.
- Krishna, A. and Uphoff, N. (1999) Social capital : A conceptual and empirical study of collective action for conserving and developing watersheds in Rajasthan, India. *Social Capital Initiative Working Paper*, 13. The World Bank : Washington, D. C.
- 黒川祐光 (2015) 総合型地域スポーツクラブの自立的運営に関する一考察：三重県内総合型地域スポーツクラブを着目して. *地域活性研究*, 6 : 203-212.
- Lee, S. P., Cornwell, T. B., and Babiak, K. (2012) Developing an instrument to measure the social impact of sport : Social capital, collective identities, health literacy, well-being and human capital. *Journal of Sport Management*, 27 : 24-42.
- Loury, G. C. (1977) A dynamic theory of racial income differences. In : Wallance, P. A. and Lamond, A. M. (Eds.) *Women, minorities, and employment discrimination*. Lexington Books : Lexington, pp. 153-186.
- Marlier, M., Dyck, D. V., Cardon, G., Bourdeaudhuij, I. D., Babiak, K., and Willem, A. (2015) Interrelation of sport participation, physical activity, social capital and mental health in disadvantaged communities : A SEM-analysis. *PLOS ONE*, 10(10).
- 松橋崇史・金子郁容 (2012) 学校体育施設の有効的活用を実現するための「共有地のジレンマ状態」の解決：NPO 法人格を持つ総合型地域スポーツクラブの事例研究. *体育・スポーツ経営学研究*, 26 : 35-51.
- 文部省 (1960) *社会体育：考え方・進め方*. 教育出版：東京.
- 文部省 (2000) *スポーツ振興基本計画*. スポーツ・青少年局 企画・体育課.
- 文部科学省 (2012) *スポーツ基本計画*. スポーツ・青少年局 スポーツ青少年企画課 スポーツ政策企画室.
- 文部科学省 (2015) 平成26年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果概要. スポーツ・青少年局 スポーツ振興課.
- 森岡清志 (2011) ソーシャル・キャピタルの集積的効果. *放送大学研究年報*, 29 : 1-11.
- 長積仁・榎本悟・松田陽一 (2006) スポーツ振興とソーシャル・キャピタルの相互補完的關係：ソーシャル・キャピタル研究の視座と可能性. *徳島大学総合科学部人間科学研究*, 14 : 9-24.
- 長積仁・榎本悟・曾根幹子 (2009a) 地域スポーツクラブがコミュニティにもたらす影響：プログラムへの参加とソーシャル・キャピタルとの関係性の検討. *生涯スポーツ学研究*, 6 (2) : 1-11.
- 長積仁・榎本悟・曾根幹子 (2009b) 行為者間の信頼に基づく地域スポーツ振興事業の組織化と創発：ソーシャル・キャピタルの機能と生成に着目して. *体育・スポーツ経営学研究*, 23 : 11-31.
- 内閣府 (2010) 「新しい公共」宣言. 第8回「新しい公共」円卓会議資料.
- 中村好男・菊池広人・間野義之・木村和彦・宮内孝和 (2003) 総合型地域スポーツクラブの育成・運営評価のための会計試算. *スポーツ産業学研究*, 13 (1) : 79-85.
- 仲谷鈴雄奈 (2012) 農山村における総合型地域スポーツクラブの役割. *奈良体育学会研究年報*, 17 : 7-12.
- 中澤純一・青木かよ子 (2004) 学校を発信地とした総合型地域スポーツクラブ：「しずおか型地域スポーツクラブ」竜爪 CSC 活動. *日本生涯教育学論集*, 25 : 89-98.
- Nicholson, M., Brown, K. and Hoye, R. (2013) Sport's social provisions. *Sport Management Review*, 16 : 148-160.
- 西原康行 (2012) 総合型地域スポーツクラブクラブマネージャーの学びの過程：実践家としての気づきに着目して. *体育・スポーツ経営学研究*, 25 : 25-36.
- Numerato, D. (2008) Czech sport governing bodies and social capital. *International Review for the Sociology of Sport*, 43(1) : 21-34.
- Numerato, D. and Baglioni, S. (2011) The dark side of social

- capital : An ethnography of sport governance. *International Review for the Sociology of Sport*, 47(5) : 594-611.
- OECD (Organization for Education Co-operation and Development) (2001) *The well-being of nations : The role of human and social capital*. Centre for Education Research and Innovation.
- Office for National Statistics (2003) *Measuring social capital in the United Kingdom*.
- Okayasu, I., Kawahara, Y., and Nogawa, H. (2010) The relationship between community sport clubs and social capital in Japan : A comparative study between the comprehensive community sport clubs and the traditional community sports clubs. *International Review for the Sociology of Sport*, 45(2) : 163-186.
- Ostom, E. and Ahn, T. K. (2003) *Foundation of social capital* : Edward Elgar Publishing : London.
- Peachey, J. W., Cohen, A., Borland, J., and Lyras, A. (2011) Building social capital : Examining the impact of Street Soccer USA on its volunteers. *International Review for the Sociology of Sport*, 48(1) : 20-37.
- Peachey, J. W., Borland, J., Lobpries, J., and Cohen, A. (2015a) Managing impact : Leveraging sacred spaces and community celebration to maximize social capital at a Sport-for-Development event. *Sport Management Review*, 18 : 86-98.
- Peachey, J. W., Bruening, J., Lyras, A., Cohen, A., and Cunningham, G. B. (2015b) Examining social capital development among volunteers of a Multinational Sport-for-Development event. *Journal of Sport Management*, 29 : 27-41.
- Perks, T. (2007) Does sport foster social capital ? The contribution of sport to a lifestyle of community participation. *Sociology of Sport Journal*, 24 : 378-401.
- Prins, R. G., Mohnen, S. M., Lenthe, F. J. V., Brug, J., and Oenema, A. (2012) Are neighborhood social capital and availability of sports facilities related to sports participation among Dutch adolescents? *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity*, 9 : 90.
- Prins, R. G., Beenackers, M. A., Boog, M. C., Lenthe, F. J. V., Burg, J. and Oenema, A. (2014) Neighborhood social capital as a moderator between individual cognitions and sports behavior among Dutch adolescents. *Social Science & Medicine*, 105 : 9-15.
- Putnam, D. R. (1993) *Making democracy work : Civic traditional in modern Italy*. Princeton University Press : Princeton.
- Putnam, D. R. (2000) *Bowling alone : The collapse and revival of American community*. Simon & Schuster : New York.
- Rowland, B. C., Wolfenden, L., Gillhan, K. Kingsland, M., Richardson, B. and Wiggers, J. (2015) Is alcohol and community sport a good mix? : Alcohol management, consumption and social capital in community sports clubs. *Australian and New Zealand Journal of Public Health*, 39(3) : 210-215.
- Sajedi, J. and Nia, H. T. (2015) The relationship between social capital and organizational performance of sport and youth ministry staff. *Journal of Current Research in Science*, 3(1) : 11-14.
- 作野誠一・清水紀宏 (2001) 地域スポーツクラブの組織形成過程における市町村行政職員の行動とその効果 : 文部省総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業に着目して. *体育・スポーツ経営学研究*, 16 ( 1 ) : 43-58.
- 佐藤充宏・近藤光男・香山卓也・佐藤信二 (2008) 総合型地域スポーツクラブにおける健康づくり事業導入の効果計測に関する研究. *地域学研究*, 38 ( 2 ) : 527-538.
- Seippel, O. (2006) Sport and social capital. *ACTA Sociologica*, 49(2) : 169-183.
- Seippel, O. (2008) Sports in civil society : Networks, social capital and influence. *European Sociology Review*, 24(1) : 69-80.
- 関根正敏・柳沢和雄・川邊保孝 (2009) 総合型地域スポーツクラブの設立をめぐる正当性の確保と地域生活の歴史に関する研究. *体育・スポーツ経営学研究*, 23 : 33-47.
- Skinner, J., Zakus, D. H. and Cowell, J. (2008) Development through Sport : Building social capital in disadvantaged communities. *Sport Management Review*, 11(3) : 253-275.
- 曾根幹子 (2005) 「総合型地域スポーツクラブ」と住民の関係性からみた戦略的マーケティング : 新たな会員の創造をめざして. *広島体育学研究*, 31 : 9-23.
- 曾根幹子・折本浩一 (2007) 地域スポーツクラブと地域づくりに関する研究 : 総合型地域スポーツクラブの継続・成長の可能性. *広島体育学研究*, 33 : 19-31.
- Spaaij, R (2012) Beyond the playing field : Experiences of sport, social capital, and intergration among Somalis in Australia. *Ethnic and Racial Studies*, 35(9) : 1519-1538.
- Statistics New Zealand (2006) *Framework for the measurement of social capital in New Zealand*.
- 炭谷将史 (2012) 総合型地域スポーツクラブを対象とした研究における成果と今後の課題. *スポーツ産業学研究*, 22 ( 2 ) : 281-293.
- 谷口勇一 (2014) 部活動と総合型地域スポーツクラブの関係構築動向をめぐる批判的検討 : 「失敗事例」からみえてきた教員文化の諸相をもとに. *体育学研究*, 59 ( 2 ) : 559-576.
- 富山浩三・長積仁・松永敬子 (2002) 総合型地域スポーツクラブ設立における組織間のコンフリクトの類型化. *体育・スポーツ経営学研究*, 17 ( 1 ) : 49-59.
- Tonts, M. (2005) Competitive sport and social capital in rural

- Australia. *Journal of Rural Studies*, 21 : 137-149.
- Walseth, K. (2008) Bridging and bonding social capital in sport-experiences of young women with an immigrant background. *Sport Education and Society*, 13(1) : 1-17.
- Whittaker, C. G. and Holland-Smith, D. (2016) Exposing the dark side, an exploration of the influence social capital has upon parental sports volunteers. *Sport Education and Society*, 21(3) : 356-373.
- Woolcock, M. (1998) Social capital and economic development : Toward a theoretical synthesis and policy framework. *Theory and society*, 27 : 151-208.
- Woolcock, M. and Narayan, D. (2000) Social capital : Implications for development theory, research, and policy. *The World Bank Research Observer*, 15(2) : 2-49.
- 山口泰雄 (2006) 地域を変えた総合型地域スポーツクラブ. 大修館書店 : 東京.
- 八代勉 (1996) 21世紀社会のスポーツ環境. *スポーツと健康*, 29 (11) : 5-8.
- 行實鉄平・清水紀宏 (2003) 総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する事例研究 : NPO 法人化過程に着目して, 体育・スポーツ経営学研究, 18 (1) : 25-36.
- 行實鉄平・中西純司 (2009) 総合型地域スポーツクラブ会員の運営参加とソーシャル・キャピタルの関連性. *九州体育・スポーツ学研究*, 24 (1) : 1-14.

#### インターネット参照

- CiNii (国立情報学研究所論文情報ナビゲータ) 国立情報学研究所 : <http://ci.nii.ac.jp/>
- J-STAGE (総合電子ジャーナルプラットフォーム)
- 国立研究開発法人科学技術振興機構 : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- Science Direct (エルゼビア・ジャパン株式会社) : <http://www.sciencedirect.com/>
- Web of Science Core (トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社) : <http://apps.webofknowledge.com/>